

【研究会テーマ】

「主体的な学び」をつくる！

「発問」「助言」「学習課題」を生かした国語授業

―切れ味のある指導言のつくりかた―

先日の冬の研究会では、「想像力のスイッチを入れよう」の文章が、こちらで分析していたものと皆さんに配布したもののバージョンが異なっていたことから混乱をきたし、「迷惑をおかけしました」。

皆さんにお配りしたものが現行教科書に掲載されているもので、**現行版を対象に分析をし直したものを送りします。**

【1】想像力のスイッチを入れよう（下村健一）

〈教材観・内容〉

- ・これまでの教科書教材ではあまり触れられてこなかったような内容。
- ・メディアが発信していることについて、印象や思い込みでそのまま鵜呑みにしないことの大切さを述べている。
- ・メディアリテラシーや読み研の「吟味よみ」的な観点にも通ずる内容。

〈文種〉

- ・論説文。「『想像力のスイッチを入れる』ことが大切」という主張が仮説となっており、その大切さをサッカーチームの新監督についての報道を事例として提示しながら論証している、と読めるため。

〈構造よみ〉

- ・6段落にすでに『想像力のスイッチ』を入れてみる事が大切なのである」とあり、はじめ（序論）で結論を述べていると読める。
- ・序論から事例が挙げられているが、メインとなるのは7段落からの「サッカーの人気チームで監督が辞任する」ことに関する事例で、ここからが、なか（本論）。
- ・15段落からはサッカーチームの話題から離れ、主張の一般化に入っているの、ここからがおわり（結び）だろう。
- ・なか（本論）は3つに分かれると考えられる。それぞれに筆者の仮説が書かれている。
- ・おわり（結び）にもはじめ（序論）で述べた主張（結論）が繰り返されているため、いわゆる「双括型」の文章である。

●構造よみの学習課題

・「想像力のスイッチを入れよう」の文章構造を明らかにしよう。

【発問と助言】

- ① この文章を、はじめ・なか・おわりの三つのまとまりに分けよう。
- ② この文章で筆者が最も伝えたいことは何ですか。どこに書いてありますか。
- ③ ②で子どもから6段落または16段落のどちらかが出たら、それはその一か所だけですか？ ほかのところにも同じことが書いてありませんか。
- ④ 「想像力のスイッチを入れること」は比喻を含んでいますね。それがもっと具体的にはどのように言い換えられていますか。
- ⑤ 「想像力のスイッチを入れること」の具体的な言い換えにはどのようなものがありますか。それらはどこにありますか。

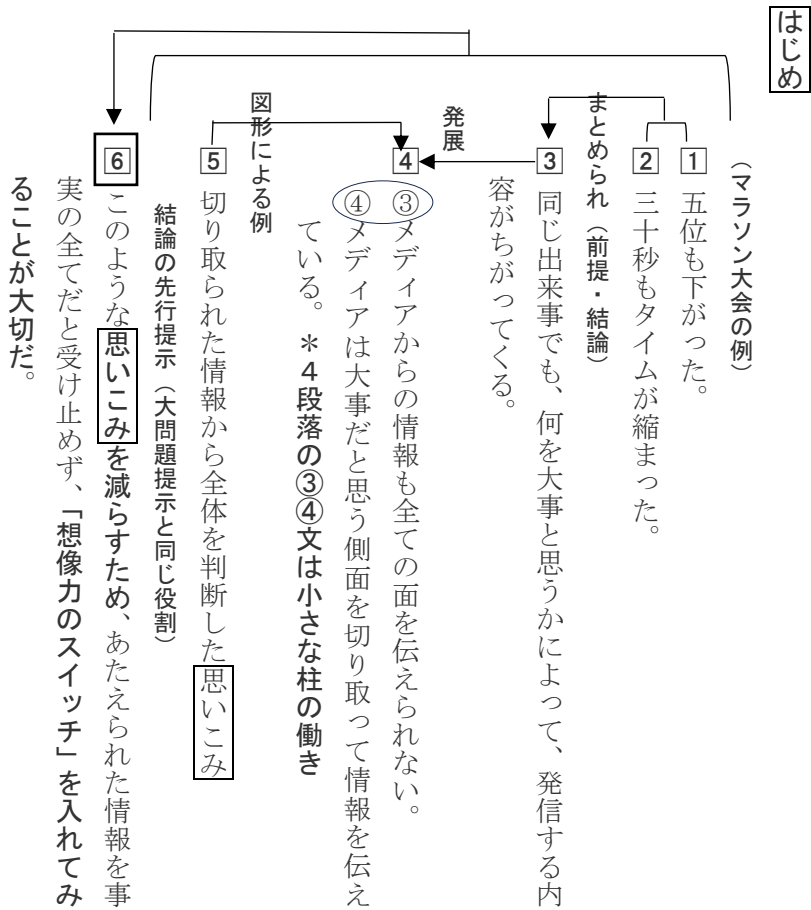
⑥ サッカーチームの監督についての報道が終わって、全体のまとめに入っているのはどこの段落からですか。なぜそのように読めるのですか。

結び (おわり)	本論 (なか)			序論 (はじめ)
16 15	14	7	6	1
<ul style="list-style-type: none"> メディアの側も、情報を受け取るあなたの側も、それに努力が必要。 ● (結論) あなたの努力は、「想像力のスイッチ」を入れることだ。 	<p>なか 3</p> <p>14 13</p> <ul style="list-style-type: none"> ● だれかを苦しめたり、だれかが不利益を受けたりすること 	<p>なか 2</p> <p>12</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 暗がり「何がかくれているか」と想像すること <p>・ 伝えていないことにも想像力を働かせること (小問題提示的に軽く主張)</p>	<p>なか 1</p> <p>11 - 7</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 結論を急がないこと (小問題提示的に軽く主張) ● 「事実かな、印象かな」と考えてみる ● 「他の見方もないかな」と想像してみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マラソン大会の事例 ・ 「メディア」とは ・ 図形の事例 <p>● (結論) 「想像力のスイッチ」を入れてみるのが大切。</p>

● 印は筆者の仮説を示す。

* 「はじめ」が3段落や4段落まで、という意見が出るかもしれない。特に5段落の図形の例などはかなり具体的である。しかし、メインテーマである「想像力のスイッチ」という概念が初めて出てくるのは6段落であり、その概念をめぐって7段落以降でサッカーチームの事例と共に3つの具体的内容が詳しく語られると考えればやはり「はじめ」は6段落までだろう。

〈論理よみ〉* 形式上全体をまとめているような部分を「柱の段落」や「柱の文」ととらえるのではなく、**実質的に筆者の仮説・主張と考えられる段落や文を「柱」と考えています。**



なか1

7 (事例) サッカーチームの新監督についての報道

8

説明

①まず大切なこと⇒結論を急がないこと。(軽く主張)
②文以降

← 言い換え

① いったん立ち止まったら、メディアが伝えた情報について、冷静に見直してみよう。

②⑥ 「報道陣をさけるためか」・「にげるように」は印象。

⑦ このように、想像力を働かせながら、一つ一つの言葉について「事実かな、印象かな。」と考えることが大切である。

⑧⑨ 補足

10 ①記事「Aさんは、来月から予定していた外国での仕事を最近キャンセルした。」

前置き

① (記事に) 印象は混じっていない。

②だから有力な情報のように感じられる。

③だが『他の見方もないかな。』と想像してみよう。

④相手の都合でキャンセルせざるをえなかったのかも
しれない。(「他の見方」の例)

⑤他の見方もありうることに気づけば、Aさんが監督に
ちがいないと考える決め手にはならない。(補足)

なか2

12

①次に大切なのは⇒メディアが伝えたことについて冷静に見直すだけでなく、伝えていないことについても想像力を働かせること。

(軽く主張)

②メディアは、ある特定の部分にスポットをあてて情報を伝えている。

③明るいスポットの周囲には、暗がりができる。

前置き

④その暗がりには、「何がかくれているかな。」と想像することも大切だ。

⑤⑥ 報道での例

⑦ 5段落での図形の例

なか3

13

①監督には別の人が選ばれた。

②Aさんは関係なかった。

③しかしAさんは忙しいだろうと、他の人に仕事いらいを変更する
などが起こった。

④ここに例示した報道は、架空の話である。

前置き

②しかし、思いこみや推測によってだれかを苦しめたり、だれかが
不利益を受けたりすることは、実際に起こりうるのだ。

15

- ① メディアはわざとわたしたちをだましたり、思いこみをあたえたりしようとしているわけではない。
- ② 少しでも早く、わかりやすく情報を伝えようと工夫する中で、思いこみにつながる表現になってしまうことがある。
- ③ 思いこみを防ぐために、メディアの側も、情報を受け取る側も、それぞれに努力が必要だ。

16

（論証を経た上での最終結論）

焦点を絞って言い換え

- ① あなたの努力は、「想像力のスイッチ」を入れることだ。
- ② （比喩的な説明）

● 論理よみの学習課題

・はじめ、なか1〜3、おわりのそれぞれについて、柱の段落・文を見出し、柱の段落や文とそれ以外の段落・文との関係を考えよう。

★今回は、論理よみを丁寧に行う。

- ・段落ごとの要点をまとめることよりも、段落ごとの関係や段落内の文どうしの関係を考えることが大切である。
- ・文章がどのような論理展開で構成されているかを考える訓練を行うことは、今後自力で他の文章を読むことや、自分で論理的に考えてそれを文章化する力にもつながっていくはずだ。

〔発問と助言〕（十説明）

- ① 「はじめ」の柱の段落は何段落でしょうか。
- ② 「はじめ」はその文章がこれから何を明らかにしようとするのかを示す役割がありましたね。
- ③ 多くの場合それは問い（問題提示）の形で現れることが多いのですが、構造よみで見たように、この文章にはそのような問いはありませんね。問いではない形で、文章の方向性をはっきり示しているのはどの段落ですか。
- ④ そう、6段落が結論を先行提示して「想像力のスイッチ」を入れてみるのが大切と言っていますね。これが柱の段落ですね。
- ⑤ では、この6段落の内容を導き出すために、1〜5段落がどのような役割をしているか、その論理関係を考えてみましょう。
- ⑥ この文章ではまず、1・2段落のマラソン大会の例から始まりますね。この例は何を（どこのどの内容を）言うために出されているのでしょうか。（↓3段落の内容）
- ⑦ 3段落の「同じ出来事でも、何を大事と思うかによって、発信する内容がちがってくる」ということですね。それをふまえて4段落は？（↓「メディアの情報の全ての面を伝えられない、大事だと思う側面を切り取っている」と言っている）
- ⑧ つまり4段落は3段落の内容を「メディアも同じ」と発展させて言っているんですね。では5段落。「例えば」とあるから例です。どここの部分を支えるための例？（↓4段落）
- ⑨ そうです。つまり「はじめ」では1・2段落のマラソン大会の例からわかることを3段落でまとめ、それを4段落で「メディアでも同じ」と発展させて、さらにその部分を5段落の図形の例で支えているということですね。図示するようになります（論理関係図提示）。

*「なか」についての指導言は、「事後資料③追加資料2」（パワーポイントをPDF化したもの）に部分的に掲載します。「おわり」については割愛いたします。

《吟味よみ》

* 論説文の吟味なので、仮説とその論証の過程が適切かどうか、説得力のある仮説になっているかどうかポイントとなる。

【評価的吟味】

(1) 事例が具体的に、もの見方の多面性を学べる。

マラソン大会の例、図形の例、サッカーの監督の例はいずれも具体的に、物事を思い込みや一面からだけで見るのではなく、別の方向から見たら、他の可能性がないかを考えてみたりすることの大切さがよくわかる例となっている。

(2) 事実と印象を分けることの大切さがわかりやすく示されている。

9 段落で示されている例文では「報道陣をさけるためか」と「にげうら口から／出ていきました」だけが事実であることがわかりやすく示されている。私たちがいかに印象にとらわれがちか、ということがよくわかる例文である。

【批判的吟味】

(1) 「はじめ」の図形の事例について

5 段落で提示されている図形の事例は、4 段落の「これらメディアから発信される情報もまた、事実の全ての面を伝えることはできない。それぞれのメディアは、大事だと思ふ側面を切り取って、情報を伝えているのである。」を受け、「例えば、〽と示されているものである。」

しかし、図形の事例は「メディア」による情報の例ではなく、4 段落で述べていることに対する適切な例とは言いい切れない。5 段落で図形ではなくメディアの例を挙げるか、または4 段落の段階では「情報」とだけしておいて、図形の事例を挙げた後で「メディア」について説明し始めてもよかつたのではないか。

(2) サッカーチームの監督報道について

7・9・10 段落1文でゴチックによって示されているレポートや記事と、それによって読者が受け取る可能性についての記述にはとても説得力があり、13 段落で「結局、サッカーチームの次の監督には、別の人が選ばれた。」の部分を読むと、「そうか、筆者の言う通り、印象を鵜呑みにしてはダメなんだな。」としみじみ感じてしまう。

ところが、14 段落の第1文には「ここに例示した報道は、架空の話である」とある。それまでの報道についての記述があなたも実際にこのようなことがあったかのような印象を与えるにも関わらず、ここに来てこの「報道」は「架空の話」だと言うのである。報道自体が筆者の創作であるのなら、それがわかったとたんせつかくの説得力が薄まってしまうのではないか。

もつとも、よく読んでみると9 段落のレポートの後には「〽というレポートがあつたとする。」とあるし、10 段落のレポートの直前にも「〽、こんな新聞記事も出たとしよう。」（いずれも傍点、鈴野）と、これらが実は架空であることを仄めかしているような表現も見られる。

しかしそれでも14 段落を読んだときに読者が呆気に取られてしまふのはなぜか。それはおそらく13 段落の「結局」以降の書かれ方がたいへん強く、「実際にこうだった」という事実があつたかのように読者に印象づけられてしまうからではないだろうか。

筆者が正直に「種明かし」をしているこの14 段落の1文を入れることについての是非は、吟味、議論する価値があるかもしれない。

● 吟味よみの学習課題

- ・この文章のすぐれたところ、不十分なところをそれぞれ挙げてみよう。
- ・いくつかの事例やそれを材料とした論証は、筆者の主張に説得力を持たせることに成功していますか、考えてみよう。

(こちらの助言についても、パワーポイントをPDF化した資料をご参照ください。)

【参考文献】 渡邊絵里・熊添由紀子「説明文・論説文の吟味・批判

の授業で『深い学び』を実現する―教材『想像力のス
イツチを入れよう』(小5)を使って」『国語授業の改
革18 国語の授業で「深い学び」をどう実現してい
るか』(二〇一八年 学文社) より